

A-1 劔岳(2999m)

【山行日】2021年5月28日～5月31日

【CL】3547 【参加者】3291 3463 3508 3527 3588

【コース】5/28 刈谷ハイウェイオアシス 20:00==24:35 立山駅駐車場 5/29 立山駅～
==9:10 室堂…12:25 劔御前小屋…13:50 劔沢小屋 (テント泊) 5/30 劔沢 5:15…6:15 平
蔵谷出会…8:35 平蔵のコル…10:15 劔岳 10:40…11:20 平蔵のコル…12:20 前劔…13:55 一
服劔…15:30 劔沢小屋 (テント泊) 5/31 劔沢小屋 6:50…8:10 劔御前小屋…11:05 室堂
==～12:50 立山駅==19:00 刈谷ハイウェイオアシス



劔沢にテントを張り終えた頃には、吹き抜ける風が強くなってきた。それは想像以上の速さで雪渓を渡っていく。明日の早朝より源次郎尾根に取り付く予定ではあるが、ほんのり不安が募る。夕食後 CL より明日の行動の変更が告げられる。強風が続く予報が出ていた為だ。

源次郎尾根ルートから平蔵谷を詰め 本峰を目指すことになった。ホッとした気持ちと残念な思いが交差して、皆の声のトーンも静かになる。ただコースを変えるだけの事だが此処は劔だ。日常とはかけ離れた環境と時間に置かれて、初めて味わう心模様。ここでした味わえない醍醐味かもしれない。

翌早朝より劔沢を降りて行く。ドンドン源次郎尾根の末端が近づいてくるが、この広大な雪渓は何度訪れても心が躍る。平蔵谷に入り 1 峰のフェースを見上げながら高度を稼ぐ。草付きがまばらで濡れたフェースが不気味に被ってくる。風は弱まってきたがガスは濃くなるばかりだ。いつの間にか着いた頂上の祠は半分以上雪に埋もれていた。

下山の日 御前小屋を目指して登っていく。そして振り返る。もう何度繰り返して来たのだろう。此処から望む劔は、ある時は遠く遠く見え、又ある時は眼前に聳え立つ。その時の私の心境が劔への距離を推し量っていたのだろう。「これが最後かな」といつもの呟きで雷鳥沢へ下っていく。それが私の劔岳への挨拶か。(3291)